

平成26年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

福岡県立行橋高等学校長 印

⑥

その1

学校運営方針		創造性豊かで、社会の変化に主体的に対応し、明るく心豊かなたくましく生きる、実践力を持った産業人を育成する。		
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	評価(3月)
行橋高校は「何事も一所懸命に頑張る生徒を応援します」をスローガンに、ポイント制を導入することによって、生徒の服装整備は顕著に向上した。その結果、生徒の態度も落ち着いてきており、資格取得や各自の進路目標に向けて頑張っている。昨年度は創立110周年記念事業を成功させ、地域からの評価も高まり、好意的に受け入れられている。今後は、地域において増大する本校への信頼と負託にこたえるため、全学科を挙げて学校力の飛躍的な向上を目指すとともに、集合型専門高校としての魅力ある学校づくりを推進し、地域に生かされる人材づくりを目指す。		①さわやかでけじめのある、基本的な生活習慣が身についた人間を育成する。	ポイント制で生徒の頭髮、服装の整備を徹底し、基本的な生活習慣を育成する。生徒との対話をとおし、心にひびく指導を心掛ける。	A
		②基礎基本を重視し、基礎学力の充実を図る。	生徒の実態に即した授業工夫と学力向上のための授業改善を図る。	
		③資格取得を奨励し、社会の変化に対応できる進路指導の確立を図る。	資格、検定試験、模試、校内実力考査を実施する。サポート講座を実施する。	
		④気力・体力に溢れ、健康でたくましい心身を育成する。	部活動や生徒会・家庭クラブ・農業クラブ活動の活性化を推進する。学科間連携を推し進め、福岡県オリジナルブランド品開発及び校外奉仕活動等を行い、生徒による地域貢献を推進する。	
		⑤いじめを許さない姿勢と、豊かな人間性を持って人権を尊重する精神を養う	人権教育推進委員会を中心に、人権教育の推進を図る。授業連絡カード等を活用して、生徒の日常生活を細かに観察し、変化にいち早く対応できる態勢を整える。	
		⑥意欲的に学ぶ姿勢を育成する。	魅力ある授業づくりを行うとともに、個人面談を充実させ、生徒の意欲を喚起する。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導	学習習慣の確立と基礎学力の充実	授業規律の確立のため、授業時のマナーを厳守させ、問題点の早期解決を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律確立のため強化月間を設定したり、校内巡視などを実施したため、以前に比べて改善がみられた。次年度も継続して強化期間を設けて授業規律の定着、意識向上に努めていきたい。</li> <li>基礎学力充実のための学習習慣の定着を全教科で取り組み、予習、復習、課題等のあり方を工夫する必要がある。</li> <li>成績不振者に対する指導を早期に、また綿密に実施していけるように計画したい。</li> <li>出席率は徐々にではあるが改善されてきている。基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、学校生活が充実していくように各分掌、各学科、各教科での取り組みを活性化していく。</li> <li>授業改善のため、研修部と連携して、研究授業や授業参観等を活性化し、研鑽を深める。</li> <li>現在の教育課程を検討し、次年度の教育課程改善と、観点別評価導入に向けての研究を継続する。</li> </ul>
		学習習慣をつける取り組みを充実させ、成績不振者に対する指導を徹底する。	B	
	出席率98%以上を目標と、基本的な生活習慣を身につける雰囲気作りを醸成する。	A		
	授業改善	PDCAサイクルを活用し、指導計画、指導方法、評価方法等を十分検討し、授業改善を図る。	A	
新学習指導要領への対応	新教育課程の実施とその課題を検討し改善を図る。	A		
	観点別評価規準及び基準の課題を検討し改善を図る。	B		
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	場に応じた行動や言葉遣いができるように指導し、服装頭髮に対する意識を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>服装頭髮においては、学年間により温度差はあるものの、強化週間を設けたことで全体的に落ち着いてきている。今後も継続した指導を行う。</li> <li>問題行動も、学期始め等に校内巡視月間を設けたことで、昨年度より3割減となった。次年度も強化指導週間等を継続したい。</li> <li>生徒規約の見直しについても、生徒会執行部の生徒との意見交換をしながら、継続した見直しを行うとともに、教職員の共通理解を図っていく。</li> <li>生徒会活動の組織化に伴い、各種専門委員会の計画的な活動につなげたい。</li> <li>安全教育については、自転車マナーを中心に安全教育・指導を実施したい。</li> <li>次年度も、職員による、定期的な登下校指導を実施したい。</li> </ul>
		校内外の巡視を随時行い、問題行動の未然防止に努力する。	A	
	生徒会活動の活性化	役員としての意識の向上を図り、各種学校行事のリーダーとして行動できるよう指導する。	A	
	生徒のリーダーとしての自覚を持ち、学校生活の各場面で高い意識を持って行動できるよう指導する。	B		
	交通安全の充実	登下校指導を中心に、生徒の安全に対する意識を高める。	A	
自転車通学生を対象に、自転車乗車マナーの向上を図る。	B			
家庭との連携	担任を中心に、学校の方針を理解し、協力していただける良好な関係づくりの構築を目指す。	A		
部活動	部活動の活性化	部活動への関心を高め、新入生の入部を促進し、加入率40%を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の1年生の入部は多いが、持続性のない生徒が多い。休部状態の部活を統合し総合部として部員の確保をはかったが、効果は薄かった。部活動の数の再検討と共に顧問教員の専門性や負担状況も含め、顧問配置の見直しと共に、活動の充実を図りたい。</li> </ul>
		部活動生としての意識を高め、複数団体の県大会出場を目指す。	B	
進路指導	組織的・系統的な指導	全職員による企業訪問を行い、企業情報の収集ならびに求人開拓を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員による企業訪問を行い、求人開拓を実施することができた。今後も企業との関係を維持していく必要がある。また、企業訪問時にインターンシップ受け入れ先の開拓もできており、今後も継続していくことが大切である。</li> <li>面接、志願書作成等の指導については、分担割りを含め、より早期に取組む必要がある。そのためには、時間確保・指導体制の面から、学科や教科との一層の連携が必要である。</li> <li>全教員による企業訪問、景気の回復基調、面接指導、生徒指導等相まって、12月末の就職内定率は82.4%と高かった。さらに向上させるためには、学力の向上、より早期からの取り組み、生活習慣の改善等が必要である。</li> <li>進路ガイダンス、講演会、進路体験発表等充実を図った。特にOB・OG講話や3年生の進路体験発表については、失敗談を盛り込み、意識の喚起を図ることができており、今後も成功・失敗両面からのアプローチスタイルを継承したい。</li> </ul>
		面接、作文、小論文、志願書作成等の指導を全職員で分担し、効率的・効果的な指導を目指す。	B	
	就職内定率向上	基礎学力の向上に向け、基礎力診断テストの効果的利用を図る。	B	
	生徒の希望を的確に把握して求人開拓を行うとともに、Web求人の積極的利用を図る。	A		
適切な進路選択、早期離職防止	進路ガイダンスの内容を精査し、進路意識の適切な発達を促す。	A		
	ミスマッチによる早期離職を防止するため、応募前職場見学を原則義務化する。	B		
保健環境	「自分の健康は自分で守る」態度の育成	100%の検診と保健室の適正利用で、健康管理と病気の予防、発見・早期治療の意識を高める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室の機能が好転し、衛生状態も改善され、事故や問題を抱えた生徒の対応など様々な保健室業務が滞りなく処理できるようになった。生徒保健委員の活動も定着し、たばこの害についてなど研究活動も生徒主体で積極的に行われた。しかし、生徒の生活習慣の乱れなど健康課題は山積しており、改善に向け、学校と地域家庭が連携した食育活動や、生活習慣の指導が望まれる。そのため保健便りなどを通じた広報活動に努めたい。</li> <li>校内の清掃、整理整頓については、まだ不十分な箇所がある。美化委員の美化点検活動で改善しつつあるが、生徒全体の美化意識はまだ十分ではない。美化点検活動をさらに充実強化して、「ポイント捨てさせない環境作り」にむけて、全校あげて、美化意識の高揚と安全で快適な美化環境づくりにつとめたい。</li> </ul>
		保健便りを通して、健康増進の啓蒙活動につとめ、家庭と連携しつつ生徒自ら健康を管理できるようにする。	B	
		生徒保健委員会の活動を充実させ、生徒の健康課題の把握と改善のための食育、研究活動を行う。	A	
安全で快適な学校環境づくり	美化委員会の活用と清掃監督の指導で、校内外のゴミの減量・分別・再利用を徹底する。	B		
図書・研修	校内研修体制の充実	基礎基本を念頭においた、より実践的な内容で研修を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「相互授業参観」「常勤講師研究授業」を、次年度は年度初めにつっかり計画し実施する。</li> <li>先生方の要望を取り入れて、日々の教育活動に直結するような校内職員研修を企画・実施する。</li> <li>充実した初任者研修を計画し実施する。</li> <li>先生方に、授業、部活動等で視聴覚室を積極的に活用していただく。</li> <li>「図書館だより」の作成等、図書委員会活動を充実させる。</li> </ul>
		お互いに参観しやすい研究授業のあり方を検討・実施する。	B	
	図書館オリエンテーションの早期実施とわかりやすい活用方法を提示する。	A		
	図書委員会として文化祭にて展示を行い、図書館利用に対する啓蒙を行う。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
庶務	PTA・同窓会及び地域との連携を図り、広報活動に努める	PTA新聞の内容の充実を図る。また、学校ホームページを活用して情報提供に努める。	A	A	・各行事が円滑に進むように連絡調整及び支援をおこなう。 ・ホームページの追加・更新を定期的に行う。 ・次年度もソフトバレーボール大会や研修視察等のPTA活動に全職員が参加するようにお願いしていきたい。
		PTAと協力しながら学校行事の活性化に努める。	A		
1学年	基本的生活習慣の確立	家庭との連絡を密に取り、安易な欠席をさせない雰囲気を作り、各クラス及び学年の平均出席率98%以上を維持する。	A	B	・出席率については、4月から11月までは98.54%であり、遅刻回数は、3.627回/月であった。 ・進路適性検査「わくわく」を実施し、進路に向けて自己の適性を考えさせた。また、進路講演会等を通して、進路への関心を喚起した。 ・学年集会を持つ回数が少なく、個の欲求のままに行動せず、集団の中における自己の役割や存在意義を考え、状況に応じた行動が取れるように指導する機会が不足したので、次年度は何とか時間確保を工夫したい。
	学習態度の育成	進路講演会等の機会を通じて出来るだけ具体化した進路目標を設定させ、その実現に向けた学習への取り組みを援助する。	B		
	社会性や公共性の育成	校内のみならず校外生活においても他者の目を意識して行動できるようになるよう、学年集会やHRを通じて指導する。	B		
2学年	基本的生活習慣の育成	家庭との連携を密にし、欠席・遅刻・早退を簡単にしない雰囲気を作り、出席率98%以上を目指す。	A	B	・全員の進級を目指したが、実現できなかった。次年度は、転校や退学が出ないようにしたい。 ・出席率98%以上の出席率は達成できたが、遅刻は相変わらず多いので、減らしたい。 ・挨拶ができる生徒の育成を目指したが、できなかった。 ・次年度は3学年なので、進路指導に力を入れ、生徒の進路実現に向けて、頑張りたい。
	学習環境の整備	定期考査に向け、自らの課題を見つけ対策を講じるように指導する。進路実現のために、学習が必要なことを理解させる。	B		
	社会人としてのマナー育成	学年集会や、授業時の挨拶を徹底させる。教員や来客者に対して挨拶や敬語が指導する。	B		
3学年	学習習慣の確立	進路実現に向けて、個々の能力を把握し学力に応じた課題から基礎学力をしっかりと身につけさせる。	B	B	・進路実現については、就職が82.4%内定、進学は90%合格とほぼ目標を達成することができた。 ・社会人になるのにふさわしい言葉遣いや態度を育成してきたが、3年間でやっと挨拶ができるようになってきた程度である。 ・欠席・遅刻・早退を少なくすることで、時間を守り責任ある行動をとるように指導してきたが、出席率は97%止まりだった。 ・各学校行事では最上級生として積極的に行動し、リーダーシップを発揮していた。
	希望進路の実現	進路指導部と連携して、早期に具体的な進路目標の実現に向けて取り組ませる。就職については年内80%以上内定、進学については100%合格を目指す。	A		
	地域から信頼される生徒の育成	校則を遵守し、「何事にもがんばる生徒」を育成する。各学校行事で、最上級生としてリーダーシップが取れるように指導する。	B		
農場	環境教育推進と地域貢献における農場活用	本校同窓会と連携し、1年生の学校林下草刈り実習を行い、学校林の保有と環境保全(山の役割)を学ぶ機会とする。 農場を開放し地域の食の発信地として、小学生や保育園児の体験実習を受け入れ、農業教育の推進を図る。	B	A	・学校林実習を機会に、地域の自然環境に気の配れる人材育成を行う。 ・地域に開かれる学校を目指して、農業や食育の発信地となるよう交流や活動を行う。 ・産振協会の予算請求を行い、設備の修繕や、農場の環境整備を行う。 ・農業クラブ活動でボランティア活動を実施する。 ・農業クラブ活動を通じて、地域農業に貢献する。次年度は、農業クラブ県大会の事務局長を担当するので、素晴らしい大会となるよう努力する。合わせて、意見発表やプロジェクト発表、農業鑑定競技、測量競技等で生徒の強化を図り、上位進出をねらう。
	農業クラブの活性化と農業アクションプランの実践	両科が連携して、農業クラブの農業鑑定競技会場としての任務を果たし、来年度の事務局長としての準備を行う。	A		
		総合型専門高校として、福岡県産業教育フェアや地域のイベントに積極的に参加し、学校の活性化を行う。	A		
農業技術科	生徒指導の充実	科と学年(担任)が連携し、基本的な生活習慣と基本的な学習習慣の確立と育成に努める。	B	A	・生徒指導部と連携して、科として生徒指導の強化を図りたい。 ・新教科「農業と環境」の環境分野の推進を図る。 ・農業クラブ活動で地域貢献を図る。そして、研究成果を地域に還元する。 ・インターンシップでは、食品製造部門の開拓を行い、地域に根ざした人材の育成に努める。
	教科指導の充実	専門教科の充実を図り、資格取得の意義を理解させ、教科指導の充実を図る。	A		
	進路指導の充実	2年生でのインターンシップ(農企業体験)の実施で、勤労意欲や学習意欲の向上に努め、進路指導の充実を図る。	A		
環境緑地科	教科指導の充実	教科の専門性を高めるため、実習コースを整備し、造園技術・測量などの専門技術習得に向けた授業展開を目指す。また、生徒実習庭園の作成にも取り組む。	A	A	・測量技術認定試験78.3%、農業技術検定3級56.7%の合格と目標をほぼ達成できた。 ・本年度新たに校外での取り組みとして守田邸庭園修復ボランティア、泉小学校野定ボランティアを実施できた ・校内でもハウステンボスコンテナガーデンコンテストや行高祭での寄せ植え体験や室内庭園制作など、生徒が意欲的に活動できる取り組みを実施できた。特にハウステンボスコンテナガーデンコンテストでは入賞することができたので、次年度は上位入賞を目指し積極的に取り組みたい。
	地域連携の充実	ハウステンボスガーデnfestaに生徒作品を出展するなど、生徒が活躍できる場面を多く設定する。	A		
	進路指導の充実	面接を意識した行動・マナーを日々の生活で身につけさせる。また、インターンシップを実施し専門技術を生かした進路をサポートする。	B		
総合ビジネス科	教科指導の充実	基礎・基本を徹底し、日商簿記検定や全商3種目以上の1級取得者を多く出せるように努める。	A	A	・学年によりバツキはあるが、各学年資格取得数で良い結果が出た。その中でも、2学年(2/1現在)は、3種目以上1級を取得している生徒が24名おり、来年度も頑張っていきたい。 ・本年度は、国公立大学を受験する生徒がいなかった。来年度は、進路においても良い結果が出るように、科の職員、普通教科の職員と連携し、取り組んでいきたい。
	進路指導の充実	進路指導部と連携をはかり、昨年度に引き続き、国公立大学への進学者が輩出できるように努める。	B		
	生徒指導の充実	時間厳守を徹底し、社会人として必要なマナーや言葉遣いの指導を行う。間違った言葉遣いを行った場合には、言い直しをさせる。	A		
生活デザイン科	教科指導の充実	生徒の実態に応じた学習指導の工夫、改善を行い、専門科目の授業に意欲をもって取り組むことができるようにする。	A	A	・家庭科技術検定の受験により、専門的な知識・技術は向上している。しかし、受験指導の時間と教科の学習内容とのバランスをとるための時間配分を検討する必要がある。 ・キャリア教育を充実するために、インターンシップや課題研究に向けた計画的な指導の時間を確保する。 ・生徒のインターンシップの受け入れ先の開拓や再検討に向け、進路指導部との連携を強化する。 ・次年度に向けて、生徒同士の引き継ぎを行うなど、学科行事における生徒の主体的な活動の継続化を図る。
	進路指導の充実	早い段階での職業観や自己理解の意識を育成するために、専門科目の特性を生かしたキャリア教育を行う。	A		
	生徒指導の充実	常識ある社会人としての言葉遣いや身だしなみ、マナーを確立させるための指導を徹底する。	B		